

柔道は組み手が命 真っ向勝負

福岡選手の父親
福岡 精一 さん



目指すは オリンピック

柔道をはじめたのは5歳の時。まだ保育園の時でした。先に柔道を始めていた兄と一緒に道場に連れて行ったのが始めるきっかけでした。小さく華奢な体でしたが、けがもせず軽快な動きでした。小学生のときは県の3人抜き大会に毎年出場し、6年間3人抜きを達成しました。

までの6年間は、部活が終わった後に毎日欠かさず、誠道館船山塾に通い続けました。この6年間が柔道に対する基本精神、向き合い方を学んだ大事な時期だったと思います。高校卒業後は、佐藤宣踐氏の導きで東海大学に進学しました。大学・院でも柔道部に所属し、数々の好成績を残してきました。60kg級時代は7kg以上の過酷な減量に耐えつつ頑張ってきましたが、本人も限界を感じたのだと思います。66kg級に転向してからは、本来の動きができるようになり、日本代表候補にも選ばれました。転向していなかったら、今回のメダル獲得もなかっただろうと思います。オリンピックへつながる貴重なメダルです。もともと小さい頃から自分より大きな相手と組み合うのが好きでした。

新ルール改正案の今大会での試験導入も追い風になりました。組み手中心の真っ向勝負です。父親として、日頃から言い聞かせていることがあります。「受けが強いという思いがあるが、世界の強者には通用しない」自分の強さにおごりを感じず、相手に楽に組み立ててはならないということとです。日々、精進を重ねて、3年後に開催されるオリンピックの日本代表権を獲得するために頑張ってください。みなさんの応援を心強く思います。



2013 世界柔道選手権銅メダル



町長を表敬訪問した福岡選手



小学校時代の福岡選手と山下泰裕氏



幼少期兄と自宅で(写真下)



2013 全日本選手権体重別初優勝時